



入門科目 基盤科目	基礎科目 基盤科目 各専門領域別特論	応用科目 各専門領域別演習	統合科目 研究科目
大学院教養科目			
※ 助産学コース 専門科目(助産学) 基礎助産学 助産診断・技術学 地域母子保健 助産管理 助産学実習			
※ 公衆衛生看護学コース 専門科目(公衆衛生看護学) 公衆衛生看護学 疫学 保健統計学 保健医療福祉行政論 公衆衛生学実習			

※保健師助産師看護師学校養成所指定規則による教育内容

## <看護学コース>

### ①専門知識・理解

1年次に配置された基盤科目により、看護の理論を学習し、またその教育方法及び管理に関する専門知識を理解・修得します。さらに、臨床科学に関する知見を深めます。引き続き開講する各看護学特論により、看護専門職者として活躍するために必要な幅広い専門の知識を身につけます。

### ②研究能力・応用力

1年次前期の基盤科目の「看護研究方法論1及び2」により専門的研究実施の基礎的能力を修得します。後期には、専攻領域単位で行われる各専門領域別演習により関連する学間分野の論文を読む能力と研究を遂行するために必要な基本的知識について学びます。その後、自己の関心のあるテーマについて探究し、臨床や地域の問題を解決するための方法を科学的根拠に基づいて導き出せる能力を修得します。「特別研究」では修得した研究手法を用いて適切に研究を実施し、データ分析や論文を作成する方法を身につけます。

### ③倫理観・社会的責任

1年次前期に開講される「看護倫理学」において、研究倫理、安全教育、情報リテラシー、知財など研究遂行にかかわる倫理だけでなく、看護専門職者として必要な看護倫理及び倫理的意思決定について系統的知識を身につけます。さらに「看護管理学」において、看護専門職者として法的責任を理解するとともに社会的責任について自覚し、看護実践の質向上に貢献できる能力を培います。

### ④グローバルマインド

1年次前期に開講される「国際看護学特論」では、文化の異なる諸外国の看護、その教育、実践、医療福祉政策における看護の役割について修得します。国際的視野に立って世界の看護・保健・医療・福祉の現状を理解し、柔軟に対応できる能力を培います。また、開設される全ての授業科目で適宜、英語文献を講読し、国際的視野を身につけます。

## <助産学コース>

### 1)ハイリスク妊娠分娩産褥・新生児に対応できる、専門的知識に裏付けされた高度助産実践能力の修得

助産領域に関する基礎的専門知識と技術及びハイリスク妊産褥婦・新生児に関する知識と技術を修得し、その後の各臨地実習において、修得した知識・技術を活用して、周産期マタニティケア能力に加え高度助産実践能力の修得を目的とします。

そのために、専門的知識と技術を用いて対象を理解し、問題を捉え専門職として問題解決

できるための講義・演習・実習科目を1年次に設定します。

授業科目として、専門科目（助産学）の「助産学特論Ⅰ（助産学概論）」、「助産学特論Ⅱ（リプロダクティブヘルスと権利）」、「助産学特論Ⅲ（周産期学婦人科学）」、「助産学特論Ⅳ（胎児学・新生児乳幼児学）」、「助産学特論Ⅴ（薬理・臨床検査学）」、「助産診断学Ⅰ（妊娠期）」、「助産診断学Ⅱ（分娩期）」、「助産診断学Ⅲ（産褥期、新生児・乳幼児）」、「周産期ハイリスクケア」、「助産学実習Ⅰ・Ⅱ」を開設します。

## 2) 周産期医療における高い倫理的感応力の修得

女性のライフサイクル各期における様々な課題とその解決を学ぶ中で、女性の生涯にわたる支援能力及び倫理的感応力の修得を目的とします。

そのために、基礎的な看護倫理についての知識を修得する「看護倫理学」を1年次前期に基盤科目として配置しました。その後、ハイリスク妊娠分娩産褥・新生児へのアセスメントケア能力や地域における母子支援を自律して行える能力を身につけるために、演習科目と実習を通して、助産師としての倫理的感応力と産褥期における倫理的課題を解決できる能力を修得する科目を設定します。

授業科目として、基盤科目の「看護倫理学」と、専門科目（助産学）の「助産診断学演習Ⅰ（妊娠期）」、「助産診断学演習Ⅱ（分娩期・産褥期）」、「助産診断学演習Ⅲ（新生児・乳幼児）」、「助産学実習Ⅰ・Ⅱ」を開設します。

## 3) 自律して地域社会に貢献するための専門的能力とマネジメント能力の修得

専門的知識に裏付けされた高度助産実践能力および助産管理能力を含めたマネジメント能力をもち、地域社会における医療・保健・福祉関係者等との多職種と協働連携して、地域における母子を包括的に支援し自律して地域社会に貢献できる能力の修得を目的とします。そのために、マネジメントに関する基本的知識を修得する「看護管理学」を設定し、その後、助産師に求められるマネジメント能力を修得する「助産業務管理学特論」、「医療福祉経営論」、「地域母子保健学特論」を設定しました。

加えて、2年次に設定した地域の保健センターにおける「地域母子保健学実習」をとおして、地域の多様なニーズに対応した母子保健サービスについて理解し、専門職としての社会的責任と自律して社会に貢献できる能力を培います。

授業科目として、基盤科目の「看護管理学」と、専門科目（助産学）の「助産業務管理学特論」、「医療福祉経営論」、「助産学実習Ⅲ（助産管理）」を開設します。さらに、応用力を高めるために、「地域母子保健学特論」、「地域母子保健学実習」を開設します。

## 4) 女性の生涯を通じたリプロダクティブヘルスの視点から、生理的、心理・社会的課題を探究し、女性のライフサイクルにおける健康問題や臨床場面の問題について分析できる能力の修得

助産学コースで修得した基本的知識と高度助産実践能力を基盤に、助産師として生涯を通じた女性のリプロダクティブヘルスの視点から、対象者の生理的、心理・社会的健康課題を探究し、科学的根拠に基づき分析できる能力の修得を目的とします。

そのために、現代社会において女性と家族が抱える様々な問題と課題をリプロダクティブヘルスの視点から明確にし、包括的・継続的な支援ができる能力を修得する講義・演習・実習科目を設定します。

授業科目として、専門科目(助産学)の「助産学特論Ⅱ(リプロダクティブヘルスと権利)」、「助産学実習Ⅱ・Ⅲ」を開設します。

#### 5)助産ケアの研究・教育者、および指導者としての能力を修得する

将来にわたり助産ケアに関する新しい知見を活用するだけでなく、自ら研究を継続し、助産学の発展に寄与する研究者、および教育者や指導者としての基礎的能力の修得を目的とします。

そのために、1年次に開設される科目により、関連する学問分野の論文を読む能力と研究を遂行するために必要な基本的知識について学びます。その後、自己の研究課題と研究方法について探究し、臨床や地域の問題を解決するための方法を科学的根拠に基づいて導き出せる能力を修得します。「特別研究」では修得した研究手法を用いて適切に研究を実施し、データ分析や論文を作成する方法を身につけます。

授業科目として、基盤科目の「理論看護学」、「看護研究方法論Ⅰ・Ⅱ」、「看護倫理学」、「看護教育学」、「看護管理学」と「特別研究」を開設します。

#### 〈公衆衛生看護学コース〉

公衆衛生看護学コースのカリキュラムの特色は、以下の5点にまとめられます。

1)複雑化・困難化する健康課題を解決し、その対策を施策化できる高い実践能力を修得する。

日本における公衆衛生の発展は、平均寿命を世界トップレベルに延伸してきました。次の課題として健康寿命の延伸、健康格差の是正が挙げられており、この解決策を発案・検討していく力、さらに広く社会の中に普及していく施策化能力が求められます。

これらの能力を支える基礎能力として、国内外の文献を収集し、それを批判的に吟味して活用可能な知見としてまとめる能力、さらにその能力を下支えする疫学データおよび保健統計を用いる能力、それらの知見をもとに新たな活動を展開する場となる地域をアセスメントする能力の修得をめざします。

そのための授業科目として、専門科目(公衆衛生看護学)の「公衆衛生看護学特論Ⅰ」「公衆衛生看護学特論Ⅱ」「公衆衛生看護学特論Ⅲ」「疫学特論」「実践統計特論」「保健医療福祉行政特論」「保健医療福祉行政演習」「地域健康生活支援実習」「公衆衛生看護学実習」を開設します。

2)未曾有の感染症や甚大な災害等への健康危機管理などについて現状を分析し、国内外の知見（研究成果）を基に対処策を検討・実施する力を修得する。

地球規模の自然環境の変化は、今後、未曾有の感染症や毎年のように生じる甚大な自然災害の発生の可能性を高めており、これから公衆衛生を担う保健師には、これらの健康危機に際し、対応する力が求められます。香川大学は四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構として危機管理先端教育研究センターおよび地域強靱化研究センターを有し、地域社会の安全・安心を担う人材育成（防災士などの資格取得を含む）を実施しています。これらのセンターに関わる教員と連携し、防災・減災の視点から、まちづくりを推進するための基礎的知識・技術の修得を促進し、また、先進的な取り組みについて国内外の知見を検討して、今後の方策を検討する能力の修得をめざします。

そのための授業科目として、専門科目（公衆衛生看護学）の「健康危機管理特論」、「公衆衛生看護管理特論」「公衆衛生看護管理演習」を開設します。なお、香川大学がもつ防災士養成コースの履修も可能で、希望者は防災士資格を取得し卒業することができます。

3)香川大学医学部教員の研究課題を基盤とし胎生期から小児期にかけてライフコースアプローチによる予防戦略のモデル化に向けた研究の活用・開発により一次予防活動を担う力を修得する。

生活習慣病が世界的な健康課題となって久しく、各国において多様な対策が検討されていますが、世界保健機関においても推奨されるようになったライフコースアプローチの方策に貢献できる保健師を育成します。ライフコースアプローチとは、成人期の健康状態のリスクが胎生期からはじまる長期的影響を受けているという疫学的見解に基づいたアプローチ法で、それに資するエビデンスが国内外および香川大学で次々と産出されています。

そこで授業科目として「生活習慣病予防看護技術特論」「健康生成活動特論」を開設し、香川大学の研究者らによる実践的な研究活動からその知見を学び、「地域看護学特論・演習」と連動させ国内外の知見をブラウジングした上で系統的にレビューします。

4)アジア諸国における協定校との協同授業・研究により、アジアの中の日本の位置づけを意識しながらグローバルな視点で健康課題をとらえ、世界の健康格差を是正し、社会的公正を目指した健康寿命延伸に貢献できる保健師

日本の公衆衛生上の課題は、健康格差の是正、社会的公正の視点にたった人権としての健康の保障など、より一層高度化しています。また、地球規模の自然環境の変化は、自然災害をはじめとし、これまでに経験してこなかった健康危機等の健康課題を生み出す可能性があります。これらの課題に対処するために、看護職として今まで以上に倫理的感性を高めた教育をめざします。

そこで、授業科目として基盤科目「看護倫理学」の履修とともに、公衆衛生看護学に重点を置いた専門科目（公衆衛生看護学）「公衆衛生看護倫理特論」を開設し、これまで特定科

目に含まれていた倫理の単元を科目として量・質ともに補完します。

5)博士前期課程に位置づけることで、看護理論や研究方法論、看護倫理等を学び、論理的思考力と研究力を備えた保健師

将来にわたり、看護専門職として自身の実践能力を高めるための自己研鑽を継続できる人材、公衆衛生看護学の発展に寄与できる研究者、および教育者としての基礎的能力を備えた人材育成をめざします。実践を記録し、それをもとに振り返り、課題を見つけそれを研究成果の産出もしくは活用により解決を図る能力を育成します。

そのために、基盤科目「理論看護学」「看護研究方法論1・2」「看護管理学」と「特別研究」を開設します。